

日本メンテナンス工業協会会報

# IAMSEC

Japan Association of Maintenance and Service Contractors

第**108**号

Vol. 33, No. 1 2022.7

Maintenances for the Future

# 目 次

## [巻頭言]

若者に魅力ある、夢を感じる業界へ 田中 史明…………… 1

## [JAMSEC News]

2022年度 通常総会開催…………… 2

2022年度 理事会役員…………… 5

2022年度 事業計画…………… 6

委員会活動状況…………… 7

会員各社の動静…………… 11

メンテナンス・レジリエンスTOKYO2022 開催報告…………… 12

## [特別記事]

第6回日本メンテナンス工業会表彰・表彰式 開催…………… 13

## [特集・人材育成]

JAMSEC フランジ締結技能講習制度の運用状況

フランジ締結認定講師連絡会リーダー 近藤 康治…………… 21

## [随筆]

我が会社人生 株式会社高田工業所 江川 弘祐…………… 24

## [ものづくりメンテナンス余話]

工場見学会で実感したこと 富士電機株式会社 喜田 功…………… 26

## [特集・プラント業界で活躍するリケジョ]

“「リケジョ」山九ウーマン”としてのこれまでとこれから

山九株式会社 大上 優…………… 28

## [Coffee Break]

「ザコシヨウ」と呼ばれる男の話 横河ソリューションサービス株式会社 神島 直樹…………… 30

## [特集・人材育成]

プラントメンテナンス技術・技能研修と職業能力評価の取り組み

公益財団法人 えひめ東予産業創造センター 荒木 孝雄 他 …… 32

## [トピックス]

大崎再開発による本社移転 株式会社明電エンジニアリング 山田 弘…………… 40

## [メンテナンスの進化を支える者達]

提案活動によるお客様の課題解決 アズビル株式会社 佐々木秀彰…………… 42

努力の先に見える達成感 山九株式会社 安部田 成…………… 43

メンテナンスにおける技術支援の取り組み JFEプラントエンジニアリング株式会社 大内 匠…………… 44

設備管理業務への新たなチャレンジ！ 日鉄テックスエンジニアリング株式会社 長谷川浩之…………… 45

視点をどこに向けるか 富士電機株式会社 岡松 康大…………… 46

## [会員会社紹介]

内宮運輸機工株式会社／共栄建機株式会社／三利特殊鋼株式会社／株式会社 竹中製作所／

日本非破壊検査株式会社…………… 47

## [事務局より]

「会報」掲載原稿の公募について ほか…………… 50

日本メンテナンス工業会 頒布資料申込書…………… 51

日本メンテナンス工業会 会員名簿…………… 52



## ■ 巻頭言 ■



## 若者に魅力ある、夢を感じる業界へ

田中 史明

千代田工商株式会社  
代表取締役社長

年明けからのオミクロン株による第6波は、新規陽性者数が、6月に入り減少傾向に転じておりますが、新亜種BA.4やBA.5による感染者の増加も懸念されており、コロナ収束の見通しは未だ立たない状況です。米中貿易摩擦に端を発した半導体不足、中国のゼロコロナ政策やロシアのウクライナ侵攻を受けての世界的なサプライチェーンの混乱や原油や石炭の値上がりによる資材価格の高騰は、プラントメンテナンス業界にも大きな影響を与えております。

コロナ禍は、我々の働き方にも大きな影響を与えました。多くの職場で在宅勤務が実施され、対面で行うのが当たり前であった職場内外の会議など多くのイベントがオンラインで行われるようになってきました。工事の現場でもラジオ体操の遠隔実施、オンライン工程会議、リモート立会検査などが実施されています。このような働き方の変化は、情報技術によるイノベーションの成果とも言えると思います。

現在、建設業に猶予されている時間外労働の上限規制が、2024年4月から適用されることになり、その対応は、メンテナンス業界の大きな課題の一つであります。現場業務の棚卸、工務からの応援、情報技術の活用、全休日の設定などの対策により、乗り越えていかなければなりません。

働き方改革と併せて考えていく必要がある課題として、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)があります。ダイバーシティは「多様性」、インクルージョンは「受容」を意味し、D&Iは、性別、年齢、障がい、国籍などの外面の属性や、職歴、価値観などの内面の属性の相違にかかわらず、それぞれの個を尊重し、認め合い、良い点を活かすこととされて

います。日本では生産年齢人口が減少し続けており、女性・シニア・外国人の就業者の活用が特に重要であり、D&Iの視点が、より重要となってきています。

さて、製鉄・火力発電・石油・石油化学プラント等の国内の産業設備は、操業開始から50年以上が経過し、高経年化した装置への安全・安定操業の重要性が増す環境にあり、メンテナンス業に対するニーズは増加するものと考えます。このようなニーズに応えるためにはメンテナンスに係る技能・技術の研鑽・伝承に継続的に取り組むことが大切であり、当会の工業会表彰制度は、そのような取り組みに貢献しています。また、6月の総会の際に報告のありましたフランジ締結技能講習制度は、漏洩防止に欠くことのできないフランジ締結の技能について業界として、認定講師が、標準化した教育プログラムにより技能講習と技量確認を行い、受講証を発行する点で、画期的な取り組みであると思います。

令和2年に発足したスマート保安官民協議会で推進が図られているスマート保安は、高経年化や人材不足といった課題を踏まえて、情報の電子化、現場作業効率化、意思決定の高度化によるプラントのスマート化を目指しており、メンテナンス業界も大きな影響を受けるものと推察します。我々もAI・IoT・ドローン等の新技術の活用により日常保全・定期修理工事の安全性を更に高め、現場作業の効率化の向上を図ることを目指していく必要があります。

こうした働き方改革、D&I、技能・技術の研鑽・伝承、保全工事のスマート化といった取り組みを通して、若者に魅力ある、そして、将来に夢を感じる業界にしましょう。